

V 理解推進と連携のための方法

I 校内支援体制について

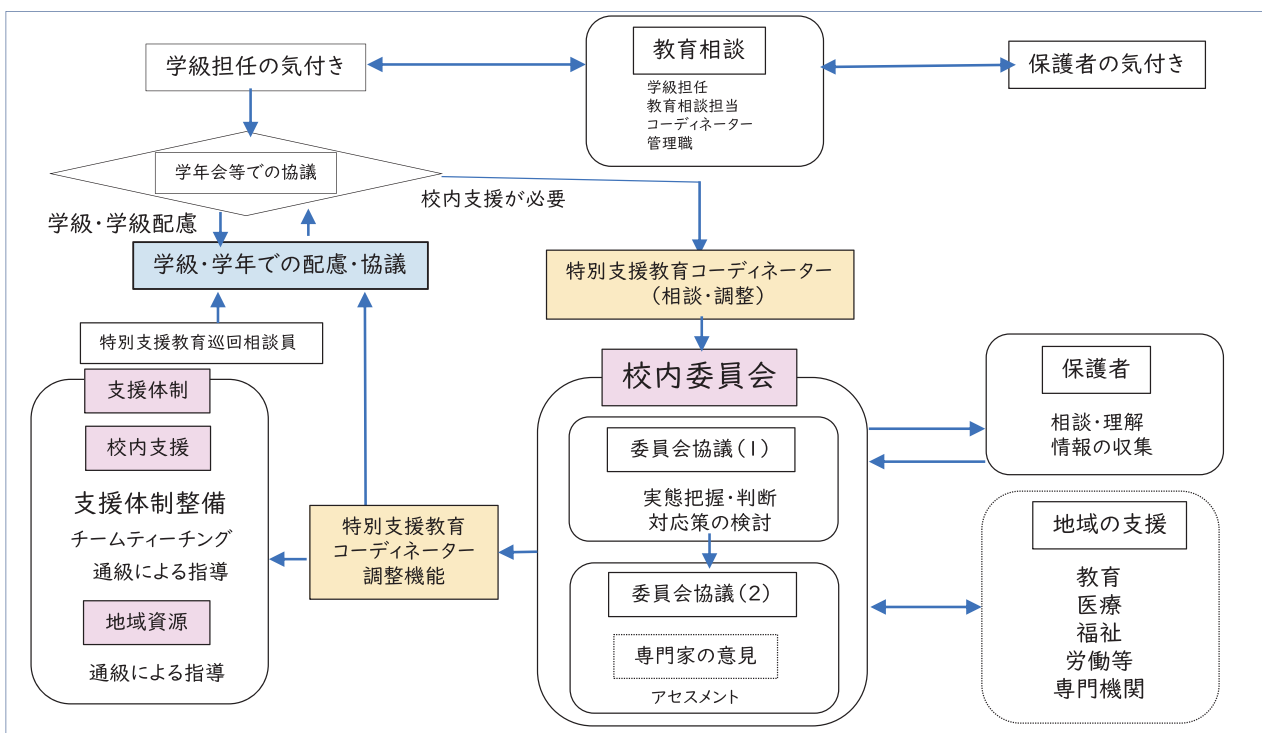
校内支援体制の構築

特別支援学級については、学校経営上の位置づけを明確にして、担任が学校組織の中で孤立することのないよう留意する必要があります。全教職員が特別支援教育についての正しい理解と認識を深めて連携を図ることができるよう、校長をリーダーとして、校内支援体制を構築することが大切です。

校内の支援体制を確立するに当たり、系統的な支援を行うための組織と仕組みを構築することが大切です。

● 校内支援体制の組織づくり

1	<input type="checkbox"/>	特別支援教育コーディネーターの指名と、職務内容の確認
2	<input type="checkbox"/>	校内委員会の設置と組織づくり
3	<input type="checkbox"/>	職員会を活用した校内委員会の設置
4	<input type="checkbox"/>	校内の各担当の人材配置と活用
5	<input type="checkbox"/>	校外の専門家等による支援体制の整備



校内支援体制関係略図

文部科学省資料一部改変

校内委員会とは

- 校内における全体的な支援体制を整備するために設置し、校務分掌上に位置付けます。
- 学校としての支援方針・支援体制を構築するために必要な教職員で構成されることが基本です。ケースや状況に応じて、柔軟に行います。
- 学習面や行動面で教育的支援の必要な児童生徒の早期発見に努め、支援方法の具体化を図ります。
- 児童生徒への指導・支援方法を協議したり、保護者との連携について共通理解を図ったりします。
- 専門家等の判断を委ねるかどうかを検討します。
- 特別支援教育への理解推進の中心となり、校内研修等についても推進します。

※入退級等の就学に関して協議する場合は、「教育支援委員会」という名称で組織及び運営をしている場合があります。

< 管理職や特別支援教育コーディネーターの役割 >

校長 及び 特別支援教育コーディネーター

学校における特別支援教育の推進は、校長の指導性の発揮等により大きく変わるものです。校長は、リーダーシップを発揮して、特別支援教育を視野に入れた学校経営を行い、全校的な支援体制を確立します。特別支援教育コーディネーターは、その専門性を発揮して、連絡調整や支援の充実に努めます。

学校全体で特別支援教育を推進するためには、まずは、校長による特別支援教育コーディネーターの指名や校内委員会の設置等の校内支援体制構築に向けた具体的な整備が必要です。また、校長がリーダーシップを発揮したり、特別支援教育コーディネーターが職務を遂行したりするためには、特別支援教育についての研修や情報交換等により、常に認識を新たにしていくことが必要です。

● 校長の役割

1	<input type="checkbox"/>	校内委員会の設置と組織づくり
2	<input type="checkbox"/>	特別支援教育コーディネーターの指名と、職務内容の確認
4	<input type="checkbox"/>	校内の人材配置と活用(担任・担当)による校内支援体制の構築
5	<input type="checkbox"/>	校内研修体制の構築と、特別支援教育についての研修の推進
6	<input type="checkbox"/>	校外の関係機関との連携整備
7	<input type="checkbox"/>	教育活動全般における管理(各種計画の作成、指導・支援の実施、評価、改善等)
8	<input type="checkbox"/>	特別支援教育への理解啓発(児童生徒・保護者・地域)

● 特別支援教育コーディネーターの役割

1	<input type="checkbox"/>	前特別支援学級担任、前交流学級担任等との引継ぎ
2	<input type="checkbox"/>	管理職との情報共有・相談
3	<input type="checkbox"/>	特別支援学級担任・通級による指導担当者との情報共有・相談
4	<input type="checkbox"/>	交流学級担任・教科担任との情報共有・相談
5	<input type="checkbox"/>	教務主任、主幹教諭、指導教諭、学年主任、養護教諭との情報共有・相談
6	<input type="checkbox"/>	特別支援教育支援員との情報共有・相談
7	<input type="checkbox"/>	校内委員会の開催・運営(校内教育支援委員会の開催・運営)
8	<input type="checkbox"/>	※ケース会議の実施
9	<input type="checkbox"/>	特別支援教育に関する校内研修を実施
10	<input type="checkbox"/>	保護者の相談窓口
11	<input type="checkbox"/>	関係機関との連絡・調整

※ケース会議 必要に応じて、関わりのある人たちで小さなチームをつくって、児童生徒の支援方法について検討する会議

特別支援教育コーディネーターは、校内のキーパーソン

- 各学校には、校長により指名され、校務分掌に位置付けられた特別支援教育コーディネーターがいます。特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制を構築して、全教職員の共通理解のもと、連携した支援を行うことが大切です。
- 特別支援教育コーディネーターは、各学校における特別支援教育の推進のため、主に、校内委員会・校内研修の企画・運営、関係機関・学校・園等との連絡・調整、保護者からの相談窓口などの役割を担うこととされています。

2 保護者・地域への理解啓発

正しい理解と啓発

まず、教員自らが特別支援教育についての理解を深め、理解推進や啓発に取り組みましょう。

教育活動の根幹には、教員自身の人権感覚の涵養と特別支援教育の素養が大切です。子どもの人権とともに、特別支援教育の知識と技能、及び動向について機敏に対応する力を兼ね備えることが大切です。

● 子どもの人権について

1	<input type="checkbox"/>	共生社会の実現のため、特別支援教育は全ての子どものために大切であること。
2	<input type="checkbox"/>	子どもには人権があり、身近にいる大人に尊重されるべき人間であること。
3	<input type="checkbox"/>	子どもには多様な個性があり、それぞれに多様な興味・関心、能力があること。
4	<input type="checkbox"/>	一人一人が大切な存在であり、それぞれがよさや可能性をもっていること。
5	<input type="checkbox"/>	子どもの行動には意味があること。

● 特別支援教育への正しい理解

1	<input type="checkbox"/>	共生社会実現のために、特別支援教育は重要な位置にあり、取り組むべきことであること。
2	<input type="checkbox"/>	特別支援教育は、学校の教職員全体で取り組むべきことであること。
3	<input type="checkbox"/>	特別支援教育は、保護者・地域においても理解推進を図るべきものであること。
4	<input type="checkbox"/>	特別支援教育は、特定の子どものためだけでなく、全ての子どものために大切であること。

● 理解啓発のための方法

1	<input type="checkbox"/>	交流及び共同学習（保護者、地域等）
2	<input type="checkbox"/>	授業参観
3	<input type="checkbox"/>	PTA総会・保護者会等
4	<input type="checkbox"/>	学校行事（入学式、遠足・修学旅行、運動会、学習発表会、作品展、卒業式等）
5	<input type="checkbox"/>	学校だより・学級通信・ホームページ等
6	<input type="checkbox"/>	学校教育活動全般

● 伝えたい内容

1	<input type="checkbox"/>	子どもの個性の多様性、よさや可能性
2	<input type="checkbox"/>	子どもの教育的ニーズに沿った指導と、周囲の理解と協力の必要性
3	<input type="checkbox"/>	校内の支援体制
4	<input type="checkbox"/>	教育相談の体制

学校は、保護者間連携・地域連携の橋渡しの場

小学校や中学校は、「地域に開かれた学校」「地域とともにある学校」といわれています。保護者・地域の方々には日々の児童生徒の登下校の見守りをはじめとして、行事や教科等の学習活動にも協力をいただくなど、「連携・協働」の体制が整い、様々な活動が行われているところがたくさんあります。そうした活動の際にも、人権教育・特別支援教育について、全教職員が使命感をもって一層の理解推進・啓発に取り組んでいくことが大切です。

学級訪問 及び 地域との学習

学校では、特別支援学級への正しい理解を推進するために、特別支援学級について学ぶ学習活動を行うことがあります。学校探検などで通常の学級の児童生徒が特別支援学級を見学したり、特別支援学級で学ぶ児童生徒の学習の様子について話を聞いたりして理解を深める取組をしています。

日常的に学級を開放することで、自然な関わりを育んでいるところもあります。また、行事や学習内容に応じて、保護者や地域の人と一緒に学習活動を行う場合があります。児童生徒についての理解や交流を深めるよい機会となっています。



参観日等を利用した保護者会

新入生の保護者は不安や悩みが多い場合があります。特別支援学級においても同様であり、保護者が参加できるような学習活動や学習発表の機会をもつなどして、保護者同士が顔をつないで協働していく機会をつくと、保護者が互いに児童生徒を理解できたり、子育ての悩み等を共有できたりして、保護者連携につなげることができます。



特別支援教育をテーマとした校内研修

全教職員の正しい理解推進のためには、校内研修の工夫が大切です。

- 例) ・ 特別支援教育の動向
- ・ 児童生徒の特性と支援方法
- ・ 公開授業、研究授業
- ・ 外部講師や保護者による講話



交流学級担任等は日常的に特別支援学級と連携することが多いですが、校内研修により全教職員の理解を深める機会をつくり、実際に特別支援学級の授業を見学したり、特別支援学級の保護者の講話を聞いたりして理解推進につなげることが大切です。

特別支援教育をテーマとしたPTA研修等

保護者や地域の人々の特別支援教育に対する正しい理解推進をめざすためには、PTAの人権教育の研修等の機会を活用することもあります。

学校が企画・運営するPTAや地域の人々が参加する研修等において、特別支援教育への理解推進を図る研修を行うことがあります。

